

## 【ウェブサイト公開用 報告書】第5回 BM 子ども相談室ミニ勉強会

講師：汐見稔幸先生

テーマ：「保育・教育で大切なこと」

日時：2022年2月2日 10時~11時半 Zoom 開催

参加者：46名（参加者居住地は東京、大阪、神奈川、静岡、米国、カナダ、ブラジル、オーストラリア、ニュージーランド、イタリア、ドイツ、オランダ、トルコ、シンガポール）

\*\*\*\*\*

### 概要：

不登校の子どもが20万人を超しているとのデータが出ており、私たちは日本の教育について考え直すべきときだと言える。これからの社会は大きく変わり、20年後がどのような社会になっているか不確定で、価値観も多様化し正解の分からない課題も次々と現れるだろう。そのような時代に自分らしく生きるための準備として、今何を学ばばいいのか、どう生きればいいのか、子どもは自分自身で見つけていくことが必要になる。つまり大人が考えた教育内容を子どもが学ぶというだけでは不十分で、子どもが自分に必要な学びを選び、作り出していけるように、子育て・教育の仕方、目標を変えねばならない。

このような子育てや教育とは「自分探し」を応援することだと言える。自分探しを応援するためには、大人世界の「本物の文化」に出会うこと、親は子どもが何かに没頭することを喜び励ます態度を持つこと、子どもの特性を肯定し善いところを見つけることが大切である。

こうして育まれる力は、学校の教科学習で身に付ける認知能力ではなく、非認知スキルと言われる能力と関係がある。非認知スキルは、アメリカで研究されてきたリーダーシップの研究と、ミシガンのペリープリスクールの研究が明らかにした社会人としての適性、能力につけられた概念である。またIQをもじったEQ（Emotional Quotient）の研究も非認知スキルと関連する。松下幸之助、本田宗一郎、坂本龍馬、エジソンらは、学校教育を受けていなくても非認知スキルを身に付け成功した人の例である。具体的には、①好奇心、興味、関心など、②試行錯誤力、失敗にめげない力など、③アイデア力、発想力、④勇気、チャレンジ精神など、⑤相談力、組織力、リーダーシップなど、⑥落ち込んでも立ち直る感情コントロール力、レジリエンス等々を最近「非認知スキル」と言っている。

社会でリーダーシップを取り、よい仕事をすると評価を受ける人は、認知的スキル（学力）とともに非認知的スキルも併せ持っている。非認知スキルを育てる中で認知的スキルを育てることが大切である。

そのためには、考えながら好きなことに没頭するような体験、つまり遊びをたくさん経験させることが重要である。遊びとは自分で考え、工夫し、アイデアを練り、チャレンジし、失敗を乗り越え、達成し、楽しむことである。その活動自体が楽しく面白いからする活動であり、楽しいと感じる活動である。そこにスキルの向上などの心身の学びを伴い、脳の中の新たな情報処理の回路ができることが大切で、そのために①没頭する②安心している③発展性がある、という3条件を整える必要がある。（2022.4.5 文責 BMCN 事務局）

以上